

○ 教科【国語科】

1 児童の状況及び実態

【令和3年度全国学力・学習状況調査結果】

- ・知識、技能について十分定着している児童が約65%、その他35%のうち約10%の児童が努力を有する。
- ・思考、判断、表現について 十分定着している児童が、約60%、その他40%の内 約20%の児童が努力を有する。

2 学習についての課題



【知識及び技能】

- ・過去に習った漢字の定着が不十分である。
- ・語彙力に差がある。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・自分の考えを、筋道を立てて論理的に表現することを苦手とする児童がいる。
- ・目的に応じて要約する力や叙述を基に読み取り想像する力が不十分である。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・自分の考えをもち、進んで表現できる児童に限られる。
- ・話し合いを通して、自分の考えを深めたり、広げたりする意識を高める必要がある。

3 授業改善に向けての具体的な方策



【知識・技能】

- ・日々の漢字テストで、新出漢字だけではなく過去の漢字も取り入れた文章でのテストを実施する。
- ・ブックバッグに国語辞典を常備させ、分からない言葉や漢字は自分で調べて活用できるようにする。

【思考・判断・表現】

- ・各教科で振り返り等を書く際に、最小限の型を用意し、自分の考えを整理して論理的に文章を書く習慣を身に付けさせる。
- ・全校朝会での校長先生の話の要約に取り組む。言葉に着目し、叙述を基に読み取ることを徹底し、交流を通して想像を膨らませられるようにする。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・すすんで考えたり、考えたことを伝えたりしたくなるような単元計画、課題の設定の作成をする。
- ・友達との交流の場を常に設けることで、友達の考えを聞いて、自分の考えを広げたり深めたりできるようにする。

○ 教科【算数科】

1 児童の状況及び実態

【令和3年度全国学力・学習状況調査結果】

- ・知識、技能について十分定着している児童が約75%
その他25%の内、約10%の児童が努力を有する。
- ・思考、判断、表現について、十分定着している児童が約65%、その他35%の内、約15%の児童が努力を有する。

2 学習についての課題



【知識及び技能】

- ・速さや時間を求める除法の式と商の意味の理解が不十分である。
- ・計算力（正確さ及び速さ）の向上が課題である。

【思考力、判断力、表現力等】

- ・文章問題の立式の際、数直線を活用し、根拠を明確にして正確に立式できる児童が少ない。
- ・自分の考えをノートに書くことはできても、相手に分かりやすく説明することを苦手とする児童が多い。

【学びに向かう力、人間性等】

- ・よりよい考えを求めて粘り強く取り組むことを苦手とする児童がいる。
- ・友達の考えの良さに気付き、自分の考えを深めたり広げたりできる児童が少ない。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- ・家庭学習で繰り返し計算ドリルの学習に取り組む。
- ・朝学習等で東京ベーシックドリルの問題を活用し、復習を繰り返し行う。

【思考・判断・表現】

- ・文章問題の立式には数直線を活用して、根拠を明確にして立式できるようにする。
- ・問題解決学習の場면을多く取り入れ、既習事項を生かして考える習慣を身に付けさせる。
- ・ペア学習で相手に説明する活動を多く取り入れる。
- ・接続詞を効果的に活用して説明できるようにする。（まず、次に、そして、つまり 等）

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・すすんで考えたり、考えたことを伝えたりしたくなるような単元計画、課題の設定を作成する。
- ・友達との交流の場、比較検討の場を常に設け、よりよい考えを導き出せるようにする。